

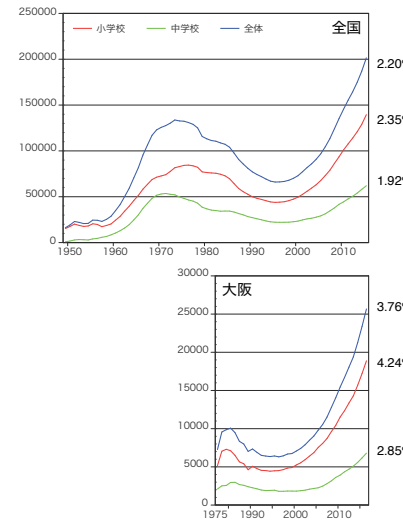
子どもの日本語教育研究会第2回大会（2017年3月11日）

特別支援教育とは何か

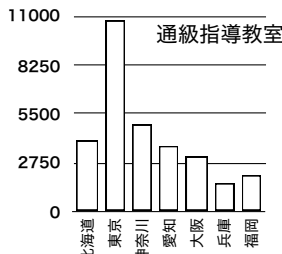
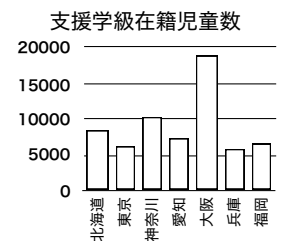
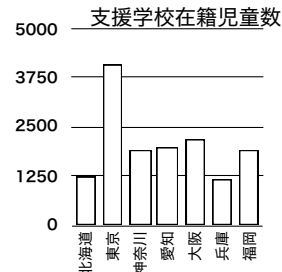
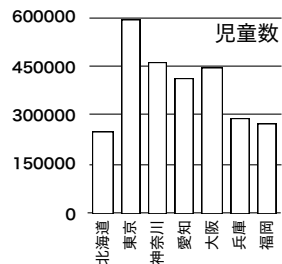
発達につまずきをもった子ども達の支援のために

高橋 登（大阪教育大学）

特別支援教育の現状



地域差の存在【小学校】



特別支援学級

特別支援学級に係る教育課程については、特に必要がある場合は、…までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。

通級指導教室

児童又は生徒の障害に応じた特別の指導を、小学校又は中学校の教育課程に加え、又はその一部に替えることができる。

心身の故障の状態に応じて各教科の内容を補充するための特別の指導を含む。

（学校教育法施行規則）

外国人児童生徒教育との接点？

合理的配慮

障害者権利条約

第二条 定義

障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。

障害者基本法（2011年一部改正）

（差別の禁止）

第四条

何人も、障害者に対して、障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない。

2.社会的障壁の除去は、それを必要としている障害者が現に存し、かつ、その実施に伴う負担が過重でないときは、それを怠ることによって前項の規定に違反することとならないよう、その実施について必要かつ合理的な配慮がされなければならない。

授業のユニバーサルデザイン

1. クラス内の理解促進
2. ルールの明確化
3. 刺激量の調整
4. 場の構造化
5. 時間の構造化
6. 焦点化
7. 展開の構造化
8. スモールステップ化
9. 視覚化
10. 身体性の活用
11. 共有化：互いに伝え合う
12. スパイラル化：繰り返す
13. 適用化：応用が利く
14. 機能化：実際に使えるようにする

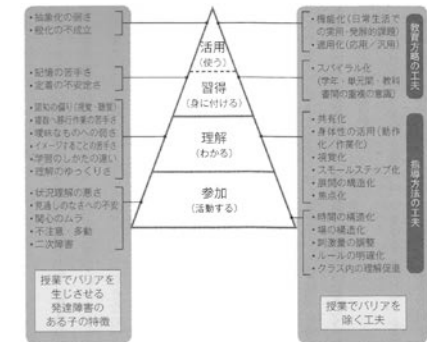


図3 授業のユニバーサルデザインのモデル図

小貴・桂(2014)より

学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン (ver. 2.0)

I. 提示に関する多様な方法の提供	II. 行動と表出に関する多様な方法の提供	III. 取り組みに関する多様な方法の提供
<p>1: 知覚するための多様なオプションを提供する</p> <p>1.1 情報の表し方をカスタマイズする多様な方法を提供する</p> <p>1.2 聴覚的に提示される情報を、代替の方法でも提供する</p> <p>1.3 視覚的に提示される情報を、代替の方法でも提供する</p>	<p>4: 身体動作のためのオプションを提供する</p> <p>4.1 応答様式や学習を進める方法を変える</p> <p>4.2 教員や支援テクノロジーへのアクセスを最適にする</p>	<p>7: 興味を引くために多様なオプションを提供する</p> <p>7.1 個人への選択や自主自律性を最適な状態で活用する</p> <p>7.2 課題の自分との関連性・価値・興味を高める</p> <p>7.3 不安材料や気を散らすものを軽減させる</p>
<p>2: 言語、数式、記号のためのオプションを提供する</p> <p>2.1 語彙や記号をわかりやすく説明する</p> <p>2.2 構文や構造をわかりやすく説明する</p> <p>2.3 文や数式や記号の読み下し方をサポートする</p> <p>2.4 別の言語でも理解を促す</p> <p>2.5 様々なメディアを使って理解する</p>	<p>5: 表出やコミュニケーションに関するオプションを提供する</p> <p>5.1 コミュニケーションに多様な手段を使う</p> <p>5.2 制作や作文に多様なツールを使う</p> <p>5.3 支援のレベルを段階的に調節して流暢性を伸ばす</p>	<p>8: 努力やがんばりを継続させるためのオプションを提供する</p> <p>8.1 目標や目的を目立たせる</p> <p>8.2 チャレンジのレベルが最適となるよう求める(課題の)レベルやリソースを変える</p> <p>8.3 協働と仲間集団を育む</p> <p>8.4 習熟を助けるフィードバックを増大させる</p>
<p>3: 理解のためのオプションを提供する</p> <p>3.1 背景となる知識を提供または活性化させる</p> <p>3.2 パターン、重要事項、全体像、関係を目立たせる</p> <p>3.3 情報処理、視覚化、操作の過程をガイドする</p> <p>3.4 学習の転移と一般化を最大限にする</p>	<p>6: 実行機能のためのオプションを提供する</p> <p>6.1 適切な目標を設定できるようにガイドする</p> <p>6.2 プランニングと方略開発を支援する</p> <p>6.3 情報やリソースのマネジメントを促す</p> <p>6.4 進捗をモニタする力を高める</p>	<p>9: 自己調整のためのオプションを提供する</p> <p>9.1 モチベーションを高める期待や信念を持てるよう促す</p> <p>9.2 対話のスキルや方略を促進する</p> <p>9.3 自己評価と内容を報はす</p>
学習リソースが豊富で、知識を活用できる学習者	方略的で、目的に向けて学べる学習者	目的を持ち、やる気のある学習者

© 2011 by CAST. All rights reserved. www.cast.org, www.udlcenter.org.



【キャスト (2011) パーンズ亀山静子・金子晴恵 (訳) 学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン ver.2.0. 2011/05/10 翻訳版】

指導・支援の目標

不勉強？

勉強しすぎ？



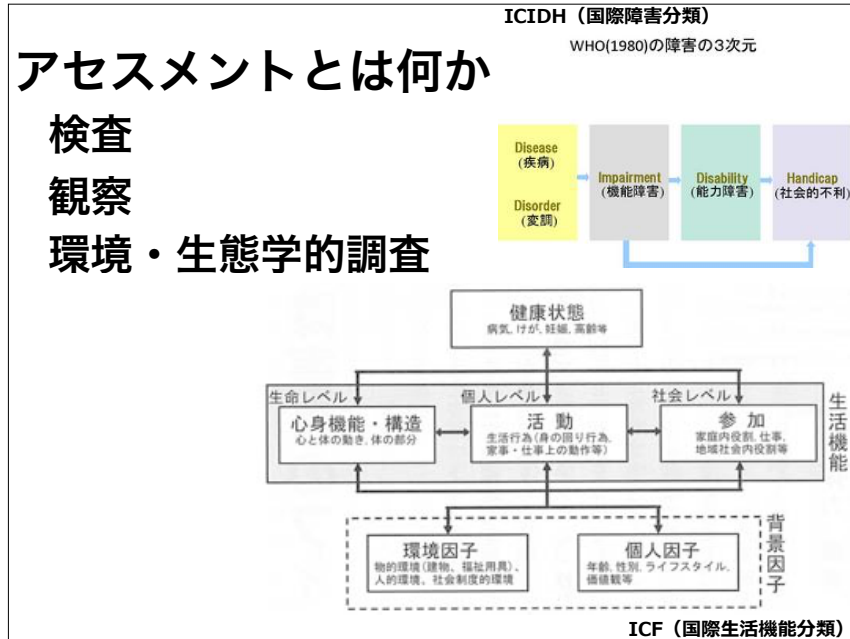
教師の専門性：「教育」の専門家
「育てること」の専門家

学力の保障

人格発達の支援

努力が報われる経験

他人から評価される経験



アセスメントとは何か

検査
観察
環境・生態学的調査

アセスメントの留意点

1. 対象者の概要

年齢・性別・所属・家族構成・生育歴・治療歴・教育歴

2. 問題把握のために必要な、適切な情報収集は行われたのか？

3. 対象者の心身の機能、活動、参加に関する調査は実施されたか？

4. 要因分析、状況・問題の見立ては適切か？

5. ダイナミック・アセスメントの視点も重要

ことばの発達のつまずきと評価

ことばのつまずきの問題は多様

コミュニケーション（語用）

読み書きのつまずき などなど

1. 障がいの有無で線引きできるものではない
2. 多様な原因があり得ることに注意する必要
3. 「発達のつまずき」の視点の大切さ

参考資料等

ユニバーサルデザイン

キャスト (2011) パーンズ亀山静子・金子晴恵 (訳) 学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン ver.2.0. 2011/05/10 翻訳版 (Google等で検索可能)

小貫悟・桂聖. (2014). 授業のユニバーサルデザイン入門：どの子も楽しく「わかる・できる」授業のつくり方. 東洋館出版社.

東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会. (2010). 通常学級での特別支援教育のスタンダード：自己チェックとユニバーサルデザイン環境の作り方. 東京書籍.

言葉の発達とつまずき・支援

大伴潔・大井学 (編著). (2011). 言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援：特別支援教育における. 学苑社.

秦野悦子・高橋登 (編著). (近刊). シリーズ新・臨床発達心理学 第5巻 言語発達とその支援. ミネルヴァ書房.